（郵便局認可）　（本號六頁）　（日曜日休刊）　（定價金二錢）

時事新報

第千四百五十六號
明治十九年十二月十一日土曜日
（丙戌十一月十六日　乙巳）
日出午前七時廿一分　日入午後四時四十六分
月出午後四時五十八分　月入午前六時十八分
潮干午前十時三十八分　潮滿午後六時三十八分
（西暦一千八百八十六年）

時事報報

官廳公務の取扱を商賈風にそる事

過般米國より歸來したる或人と面會して樣々談話の其中に近來彼の政府にて大統領クリヴランド氏の意見に諸官廳事務取扱の方法を商用の風に改めんとて專ら其主義を勵告奬勵するとの言あり蓋米國の政務い從前とても簡易を主として諸役所の公用ゐ餘計に手數もなく餘計の官員もなく日本人抔が日本の公務取扱の風を見慣たる目を以て見るに米國の官廳い常に淋しくして日本官廳の日曜日の如しとい我輩が曾て聞得たる處あるよ今大統領の意見にては尚ほ之をも足きりとせずして改良を企つるとい扨々愉快ある事にろあを本來政治ゐるものゝ性質を尋ねれば奇なるに非ず蓋なるにあらず唯是れ人事の一部分にして其一國公共の便利のために法律を設け規則を定め其内は國民の秩序安寧を保護し外い外國に公の交際して國交の榮譽を維持するの仕事より外ならず此仕事を司る處と政府と名づけ其政府に在て事を執る人を官員と云ふ其有樣と平たく云へば一商社に規則定款を設けて商業を營み内い社員の安心と得せしめ外は諸方に取引を以て社の体面を維持して聲譽を汚りもみとなからんとするものゐ異あらず此仕事と取扱ふ場所を商店と云ひ其商店ゐ勤務する人を社の役員と云ふまでの事なれば商賈奇あらず又蓋あらず商店商人共に特別の尊嚴ゐるに非ず唯其目的は成る丈け内の手數と少おくして費用を省き外に向ふ働とば活潑にして所得を多くせんとするに在るのを左れば國の政治の性質も正き商賈同樣のものにて其目的とする所も亦費用を省いて仕事と活潑にするの外に在る可ふず米國大統領の意見も此邊より發したるものなる可し例へば商用に最も貴び最も愛しむ所のものは時刻と手間と此二者にて二者の得失は正しく金錢の損得を同樣ゐ計算するものなれば等しく金を借用するにも其金主の家法徒らに鄭重にして金談の發端より其現金の受拔しゐ至る迄樣々の手數して時刻を失ふが如きゐれば利足は制合は低きにも拘らず斯る家ゐは到らずして少々高利にても他ゐ求先て手輕ゐ借用するい商人の常なり金を借用するに先づ願書を差出ゐ金主よりの呼出しに應ずて出頭、聞屆の指令書を受け取り追て重ゐて呼出しの上にて現金を渡すに至るまで願書は本書副書抑書等三通も五通も定式の用紙ゐ同樣の文と認めて一句を誤れば其意味の如何に拘はらず却下せられ呼出ゐに應ずて出頭する毎に金主は玄關に待つゐと何時間なるを知る可らず幸よして現金を請取り利拂には毎月末〆主人自ら出頭する等その取引の細事件に至るまでも明何日何時出頭せよなどと云はるゝが如き金主あらば假令へ其金は無利息にても借用するもはゐかる可ゐ如何となれば商人の時刻と手間とい黄金に等ゐきもはゐれば商人社會は實際の要用に迫まられく金は貸借ゐ多ゐる奇談ゐると聞かざるとも今日我國官邊の公用取扱に於ては往々鄭重なるもは少ゐあらざるが如し諸官廳の内部よて相互に書面の往復、見聞の小印等隨分忙しくして古書黙々日あらずして山を成す其一片紙一小印も皆是を人は勞力にして此勞力を呈そるが爲め官員と要し其官員を養ふが爲めに國庫の金を費すとゐれば一年三百六十日廳中に堆くして遂に文庫の棚に上る要書も廢紙も片々皆是れ黄金白銀は碎片とゐて見る可きものゐり然り而ゐて此金銀と此紙片とと交易して果ゐて其價は相當なるもは歟、我輩は民間に居て之を知らず假令へ之と知るも言ふ可ゐ事柄ゐあらざれば廳中は損得い結く棚き愛に官は筋より人民に直接ゐて人民の時刻と手間とに關係するものゐれば此一條に就ては聊ゐ其筋の注意を望まざるを得ず例へば人民死生の屆け寄留旅行雇人は出入所有の馬に牛ゐ車に舟に凡そ稅に關し又衛生統計に要用ゐる箇條ゐ付ひ廳屆又は役所よりの問に答ふる其度毎ゐ人民は筆勞足勞は決して容易ゐるものに非ず其中ゐは定式として同文百の書と二通にも三通にも認めて差出すゐり其三通も餘義ゐ次第ゐれば餘義ゐまとするも書中僅に一句を誤る時は其意味の通不通ゐ論ゐく三通共に改めざるを得ず戸籍人小兒を喪ふて其死亡屆より埋葬の手數に至るまで或る區役所が郡役所に書面を差出し其式に叶はざるが爲め一日六度書と改めて始めて寺に葬るを得たる者ゐりと云ふ人生の時刻と手間が黄金に等しきものとゐれば誠に堪え難き次第にゐそゐれ何か商賈風に考へゐらば今少しく簡易輕便の仕方もゐきに非ざる可し官廳の筋ゐていい人民ゐ向て一寸みれと呼出し、一寸これを待たせ、一寸屆書を出さしめ一寸間違ひゐれば一寸認め替へを命ずるなど誠に容易の事にしてゐれしきの手數を失れ是れと論ずるにも足らずなと思ふ可けれども其一寸なるものと集めて幾千一寸幾萬一寸に積むと況い總計の時刻と手間とい實に重大至極のものなるべし例へば今回内務省より第十九號の令を發して出生死去出入寄留者屆出方の法を定め當十二月一日より施行と聞いて人民の狼狽一方ゐらず何い扨置き省令第九條に云々する者い二十錢以上一圓二十五錢以下の科料に處すとゐれば是れい容易ゐらぬ事ゐりとて現在我輩の目撃するところにても東京府下各區役所の門前每日人民の群集黑山の如くにして上と下への混雜い目覺しき事共なり仮に本月一日以來一區役所に集る人數を終日平均三百人として一人の手間を十五錢と定るときい一日の損亡は四十五圓にしく十日までに四百五十圓に上る可し之を東京府下の各區各郡より他府縣に通算したらば此十日中ゐ全國人民の失ふ所い容易ゐるものにならずして郡區役所の事務即ち役人の時刻と手間と又官民双方ゐ費す所の筆紙墨の價も中々大遣ゐる金高ならん我輩は固より戸籍上の事を重んせざるにはゐらざれども此區役所の雜沓を見ていい又驚かざるを得ず官廳の筋にても兼て其邊ゐい覺悟して最上の手段を施ゐさること能はんと雖とも都て公用事務の取扱を商賈風に改革して緩急の呼吸を皆くしたらば尚ほ一層の簡便法もゐるべしと竊に望む所ゐきに非ず内務省令の事は本論の眼目にゐらされども數日來每度區役所の門前を通行の際其群集混雜と見て思ひ當ることもゐりしが故に序ゐが小紙來之を記して當局者の考案に供するものなり

官報

○條約改正會議　昨九日閣會すべき條約改正會議は來る十四日まで延會せり

○軍艦發着　天龍艦は昨九日長崎に向ひ釜山浦拔錨、鳳翔艦は去る四日横水港拔錨去る七日半田に投錨せり

○教科用圖書供給方法　今回文部省に於て教科用圖書供給の方法を定めたり其の大要左の如し

一文部省に於て教科用圖書編輯主意書を公示し其編纂を廣く世上の學者に求め普選ナル書ハ之を發賣シ又其中一部ハ文部省に購入シ之を訂正シテ刊行スルコトアルヘシ

〔二〕文部省公示ノ編纂主意書に依ルモノト否トヲ問ハス使用刊行ノ書ニシテ文部大臣ニ於テ教科用圖書タルニ妨ナシト認ムルモノハ教科用ニ充ツルヲ得セシムヘシ

三文部省ニ於テハ第一項第二項ノ圖書中善良ノモノヲ得難キ場合ニ限リ之カ編纂ニ着手スヘシ但目下編纂中ノモノ就中小學簡易科及尋常小學科ノ教本等ハ之ヲ完成スヘシ（以上本年十二月十日官報）

雜報

○丸龜營兵の行軍　去月廿五日付德島通信員よりの報知ゐ曰く丸龜營所兵行軍の事に付ては電報及書面を以てその概畧を報ゐ置きたるが尚ほ改めて詳報せんゐい記事頗ふる冗長ゐ渉るの恐れゐるを以て爰に通信員が實際見聞したる處の要目を畧報せん抑も今回の行軍は敵兵其根據を土佐に占め水路來りて德島ゐ侵入し同地もその有に歸ゐされば尚ほ進みて讃州を侵し以て丸龜營兵に抗せんとするの觀況なれば同營兵は本月十二日には第一第二第三大隊とも高松ゐ在り翌十三日には各進みて津田に至り十四日には引田に來りゐが此地は大坂山と隔てゝ阿波國板野郡大坂吹田吉田の諸村に至るの道筋ゐるが故に營兵敵情と探りゐるに早くも大坂山邊に至るとしもの陽りて直に對抗と試みゐも何分軍情逼迫ゐる所ゐれば一先軍を拔ひて德島に退かんとするゐより或は大坂山の險を扼ゐて營兵は之れと襲へんとするゐの勢ゐりしもこれより二里許距りて德島に退くの道に大寺川ゐり吉野川の一派にして水流最も激なれば敵のこの川邊に至ると俟ち鑒ゐ擊て塵殺せんとの軍略なるにや前報既でに報せし如く大寺川の兩岸にて劇しき戰爭のゐりしゐり扨てこれ一戰は兩軍實ゐ勝敗の全局を卜するに足る可き戰爭と見へて敵い此地ゐ一敗せしより轉戰連敗亦爲すと能はざりし勢とゐり愈ゐにして平定に至りしなりその他各地戰爭の狀況は爰ゐ省きゐ最もろれ進行と十五日全軍德島に入り十六日も德島に駐ゐりければ此日を以て各將校は德島師範學校同中學校等を巡視し夜ゐ入りては阿波國公會堂にて立食の饗宴を受くるゐと頗ふる鄭重の待遇ゐり翌十七日第一大隊は勝浦郡小松島第二大隊い那賀郡富岡第三大隊は板野郡岡崎へ向ひ十八日には第一大隊は名西郡石井ゐ第二大隊い德島に第三大隊は板野郡大寺に向ひ十九日には前同樣の順ゐて麻植郡山崎川島八幡ゐ向ひ二十日には美馬郡貞光脇町に向ひ廿一日には三好郡池田平木重間ゐ向ひ夫より何れも讃岐に入りて琴平瀧ノ宮ゐ廿二三四の三日間滯留し翌廿五日終ゐ丸龜に歸ゐしが此間各地到る所酒肴を出ゐて行軍と犒らひひは所謂筆食壺漿に思ひゐは此程の天氣癖として降雨時に益を傾け將卒共に非常の困難に出逢ひゐる事なりし

○養豚の必要　近來肉食の談類ゐ喧しく漸次其流行と增すの勢ゐれども一般人民は獨り牛肉のみ滋養分を含むが如く思惟し他書れ飼養には殆んど意を用ゐざる有樣なり左れども歐米ゐても豚肉は牛肉と共ゐ竝ひ行はれて肉食の一大部分を占むるものゝ如く殊ゐ豚肉い代價の廉なるが上に其繁殖い他の畜類よりも遙に速かなるを以て今より我肉食を益々流行せゐめんには牧牛の外に大ゐ豚の飼養を盛ならしむるは最も必要なるべし元來豚の用たる食用の外肥料脂肪ゐも富ゐと之を農家に養へば其肥料は種植の力と殖し其脂肪は諸器械ゐ欠くべからざる要品にして又食用にも充るを得べし加之ゐゐ豚肉い日露の外行軍の用又凶歌の糧ゐも供するを得るゐと雖ゐ多く便利ゐり然るに從來我邦に於て豚は凡て廢棄物を以て生育するものとのゐ心得之を養ふ者は眞ゐ汚穢塵屑物を用ゐ之が取扱の粗略にして且つ不潔を極むるが故に其肉は滋養分薄く肥厚も功なく脂肪も亦乏ゐく豚ゐ具する天然の利益は殆んと採收するゐ能はざるの有樣なれば保て養豚は事に巧者の聞へゐる杉田金川氏は之と憂び近頃廣く歐米の方法と取調べ又其實驗をゐ處を斟酌して專ら養豚法は改良を計畫中ゐりと云ふ

○マッシャル氏の履歴　今度東京商業學校にて白耳義國より招聘したる商業博士アーサー、マッシャル氏は履歴を聞ゐは千八百九十年アンコーテー（ケンブリッジ）と文學校ゐ入り學業の金を受ひて實行せんと一商社ゐ入り政府に入ん二年ゐ欲し數年ゐ亦し此れ始終之を國コウ白耳義遂に合ゐ外務省に際し云ゐ同玄佛、玄佛にも通キシコ日本ゐ取ひて日本ゐ來ゐ有志者ゐ會ゐ光一會とゐり取ひ右のゐ光がめ以てらざる國より數して英佛獨ゐ結すべ○傳話右の各にては○軍用び全七種々其用習熟せゐるゐ爲さゐては結例に○米國此近國ゐりと○マッシャル氏は現在大